

# 枝豆



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
地力作り	なるべく早い時期に (播種までに1ヶ月以上は おく事)  ※なるべく前年秋のうちに 地力作りしておくのが 良い ※前作の枝葉も鋤き込む	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラクトバチルス600g →排水よく、根の張りやすい肥沃な土を作る。</li> <li>●堆厩肥500kg～1トン ※堆厩肥は多いほうが良い。ただし多いほど、作付けまでに1ヵ月以上、充分に日数をおく。</li> <li>●硫安20kg (もし通常の複合肥料なら、チッソ成分4kg程度) ※ただし痩せ地の場合は、堆厩肥を増やすか、硫安40kgを。</li> <li>※播種時には 土壌EC:0.2以下に安定することが大切。 播種間際に元肥 (とくにNPK成分の肥料) を施さない事。</li> <li>※土壌pHは6.0～6.5を目標とし、もし土の酸性が強い場合は、地力作り時にも畑の大将〈青〉40～60kg程度を投入。</li> </ul>
整地時	整地・ウネ立て時に全 面散布	<ul style="list-style-type: none"> <li>●畑の大将〈青〉40kg ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将〈赤〉を施す。 初期からカルシウムを効かせ、また播種時の土壌pHも正常になる。</li> <li>●マンゾク粒状50kg →根の増強、生長促進。 (特に連作障害が心配な場合に)</li> </ul>
播種時	播種前後の灌水の時に (必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●根っ酵素500倍液を染み込ませる。→発根発芽の促進)</li> <li>※苗を植える場合は、定植時に使用。</li> </ul>
	調節 葉面散布 (灌水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●根っ酵素500倍液を葉面散布 →根・生長の促進)</li> <li>※根を強く伸ばし生育を順調にするには、特に前半は酵素液を使う。 土壌EC:0.2以下で、チッソ過多にせず、健全な栄養状態で花芽分化促進。</li> <li>※必ず、深さ10cm程の根の状態を見る事。 生長が弱い場合や主根からの側根の伸びが弱い場合、萎凋・立枯れ・根腐れなどの障害がある場合は根っ酵素液3～10ℓを300倍前後で灌水 (灌注) して、根からシッカリ回復させる。</li> <li>※もし、チッソ過多で茎が伸びすぎ (節数が少ない)、葉が広すぎる場合は、花咲くCa液500倍を葉面散布する。</li> </ul>
前半 〔開花前〕	開花が始まったら 3日のうちに第1回、 5日後に第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>●花咲くCa液500倍を葉面散布 →花を充実させ、結莢・結実・稔実を確実にする。</li> <li>※状態によって葉面散布の回数を加減。 チッソ過多・過繁茂の場合多く。</li> <li>※開花中に、状態を見ながらアミノ酸液500倍を葉面散布する。 結実にはアミノ酸栄養の力が必要。地力からの供給が不足なら葉面散布。ただし、アミノ酸・チッソには必ずカルシウムも併用。(混ぜずに交互散布) なお、開花中も土壌EC:0.2程度が適当だが、一時的に(1週間ほど)0.4程度となっても、同時にカルシウムが効いてればOK。</li> </ul>
開花中 葉面散布		
豆の肥大 登熟促進	開花終り以降 収穫10日前までに (間隔を4日以上おいて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アミノ酸液500倍を葉面散布 →豆の肥大、味のをせる。</li> <li>●花咲くCa液500倍を葉面散布 →糖度の日持ち向上。</li> <li>※もしチッソ過多の場合は、まずCa液を葉面散布。(アミノ酸液は不要)</li> <li>※注意:ラクトバチルスの地力づくりが出来ていない土壌では、チッソ (アミノ酸液も含む) の灌水施用をすると、食味・香りが落ちることがある。</li> </ul>